

第14回 (仮称) 岩槻人形博物館開設準備委員会 会議録 (要旨)

日 時 平成28年5月13日 (金) 午前10時～午前12時

場 所 さいたま市大宮区役所6階会議室

委員出欠 (敬省略)

出席委員：7名

- 林 宏一 委員長 (元東京家政大学 教授) / 分野：美術史
- 是澤 博昭 副委員長 (大妻女子大学 准教授) / 分野：人形文化史
- 村上 和夫 委員 (立教大学大学院 教授) / 分野：観光学
- 大越 久子 委員 (埼玉県立近代美術館 主席学芸主幹) / 分野：美術史
- 田島 夏与 委員 (立教大学 教授) / 分野：都市経済学
- 加藤 三郎 委員 (NPO法人岩槻まちづくり市民協議会相談役) / 分野：市民団体
- 内藤 和夫 委員 (さいたま市 岩槻区長) / 分野：行政

欠席委員：1名

- 伴戸 武三 委員 (岩槻人形協同組合 専務理事) / 分野：人形

事務局 (敬省略)

- 金子 康 (スポーツ文化局 局長)
- 並木 義和 (スポーツ文化局 副理事)
- 藤澤 英之 (スポーツ文化局 文化部 部長)
- 大塚 浩昭 (スポーツ文化局 文化部 文化振興課文化施設建設準備室 室長)
- 五月女 正人 (スポーツ文化局 文化部 文化振興課文化施設建設準備室 参与)
- 川田 泰則 (スポーツ文化局 文化部 文化振興課文化施設建設準備室 主幹)
- 粕谷 英司 (スポーツ文化局 文化部 文化振興課文化施設建設準備室 主査)
- 菅原 千華 (スポーツ文化局 文化部 文化振興課文化施設建設準備室 学芸員)
- 平井 美江 (スポーツ文化局 文化部 文化振興課文化施設建設準備室 学芸員)

- 次 第
- 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 議事
 - 4 その他
 - 5 閉会

配布資料 **次第**

資料1 (仮称) 岩槻人形博物館の進捗状況について

資料2 事業計画について

資料3 地域連携について

参考資料 (仮称) 岩槻人形博物館開設準備委員会設置要綱

- 1 開会 (司会：事務局／五月女参与)
- 2 あいさつ (金子局長)
- 3 議事 (委員会)

事務局より、

- ・施設名称が(仮称)岩槻人形会館から、(仮称)岩槻人形博物館に変更したこと。
- ・上記に伴い本委員会の要綱を改正し、委員会の名称を変更したこと。
- ・本会議が「さいたま市附属機関等に関する要綱」第7条の規定により公開し、公開方法は「さいたま市附属機関等の会議の公開に関する要綱」第5条第1項の規定により、会議の傍聴を希望する者に、会議の傍聴を認めることにより行われること。
- ・議事録作成のために録音をしていること、また議事録は各委員による確認を経た後、公開すること。

などについて説明を行い、了承された。

【議事内容】

林委員長：ただ今から、第14回(仮称)岩槻人形博物館開設準備委員会を開会します。

事業計画、地域連携についてご審議いただきたいと思います。

事務局は、傍聴者の案内をお願いします。

事務局：本日の委員会についての傍聴は、一般傍聴者、報道関係者ともにゼロでございます。

(1) 報告 「(仮称)岩槻人形博物館の進捗状況について」

林委員長：それでは、本日の次第に沿って議事を進めて参ります。

次第の3.内容の(1)報告「(仮称)岩槻人形博物館の進捗状況について」事務局より報告をお願いします。

事務局より、資料1に基づき報告が行われる。

林委員長：進捗状況について、何かご質問や確認事項はございますか。

村上委員：ゾーニングを拝見すると、普及活動というのは、地元の人々が人形博物館を使って何かすると考えられていると思いますが、それは城址公園に隣接した旧計画地で行い、他の展示機能は新しい旧岩槻区役所敷地で行うということですね。

できれば普及活動も旧区役所の方で行えないですか。

事務局：主たる普及活動の場所は城址公園で考えていますが、施設をうまく使いながら行いたいと思います。

具体的な事は、今後委員の皆様から御意見をいただきながら、また開設アドバイザーの2名の先生から御意見も伺いながら検討したいと思います。

村上委員：このように申し上げた理由は、これまでの間に人形文化を中心として、地域の活動が集約し、NPO法人もできています。今後は、外国人がやってくる事もあります。

現在所蔵している人形と外国の人形との組み合わせの展示や観光施設としての側面から、イベントや祭りの際に旧岩槻区役所敷地がコアになっていくことを考えると、コミ

コミュニティスペースを作る事が、スポーツ文化局が他の部局へアピールすることにつながると思っています。

イベントスペースといった場所を作った方が良いと思っています。

事務局：村上委員の御意見も含めまして、図面の中心の将来敷地に、にぎわい交流施設という言い方をしていますが、この中に色々な機能を準備しています。

委員からご指摘のあった機能もこちらでと考えています。

林委員長：少し事務局の説明を補足させてもらいますと、旧岩槻区役所敷地にできる施設で博物館の基本的な教育普及活動を展開していき、博物館の開館の後、旧建設予定地の城址公園隣接地には、普及的な事を色々と検討しながら開設の計画を立てていくと承っていますので、理解いただければと思います。

村上委員：都市計画の関係をもう少し申し上げますと、ここは観光施設的な要素があるので、純粋なコミュニティ活動というよりは、経済活動が生まれるような、他との交流ができるものができてくると思います。

それをスポーツ文化局にまかせるのは、確かに機能的葛藤があります。一方で長い期間、加藤委員らのご努力された人形文化の地元化は非常に大きな成果で、それがきちんと施設の中で位置づけられ、この地域の市民生活を支えていく重要な文化的なコアを担っていく必要があるという事で申し上げました。

林委員長：今の御提案について、事務局は十分受け止めていただきたいと思います。

その他に御意見はありますか。

田島委員：配置図を見ると城址公園隣接地に駐車場があり、旧区役所敷地には博物館利用者向けの駐車場を設けるのは難しいと思いますが、城址公園隣接地と旧区役所敷地にはどれぐらいの距離があり、また動線をどのように考えているのか教えていただきたい。

事務局：将来敷地とある部分に、ゆくゆくはにぎわい交流施設の整備が想定されています。

それまでは人形博物館のための駐車場にと考えています。

また、裏小路を挟んで南側にも、旧岩槻区役所時代に公用車、来客用の駐車場として使っていた場所があります。

基本的な動線としては、御成道からアプローチできる駐車場と、図面にはないのですが右側の信号から入ることがメインになると思います。

また城址公園隣接地と旧区役所敷地は直線で1キロ程度の距離感です。

田島委員：城址公園隣接地の駐車場は、博物館の来館者向けというより、新たに作る施設に来館する人のために設置するという考え方ですか。

事務局：城址公園隣接地の方は、こちらに施設を整備した場合の駐車場です。

田島委員：駐車場は、博物館の利用者の数に十分なお配慮をお願いしたいと思います。

加藤委員：さきほど、村上委員からご指摘がありました、地域連携のためのスペースを城址公園隣接地または旧区役所敷地の中に作る事が必要と思います。

地域連携のところで説明させていただきますが、場所の確保を是非お願いしたいと思います。

ます。

林委員長：配置図の中に事務所的なスペースが確保されているとみています。

次の議題の中で御意見をいただきたいと思います。

進捗状況については、これでよろしいでしょうか。

次に（２）「議題」に入ります。

ア「事業計画について」事務局から説明願います。

（２）議題 ア 「事業計画について」

事務局から資料2について説明が行われる。

林委員長：ありがとうございました。開館に向けて、タイトなスケジュールです。

今までもたびたび委員の皆様にご意見をいただいている、展示プラン、収集方針、データベース、修復について説明をいただきました。

まず、展示プランと資料収集について、ご質問やご意見をお受けしたいと思います。

この件については、是澤委員の方から補足説明があればお願いします。

是澤副委員長：最近、小学生用に日本の人形文化を紹介する本を作りました。

その際、この博物館の大体の流れが見えてきました。

この博物館は、第一に日本の人形を紹介する施設で、アジアの人形は一部他から資料を補足することで紹介することができますが、西洋人形はこの資料だけではフォローしきれないということがわかりました。

ここの収蔵品で、基礎的なものは揃いつつあると思います。日本人形とは何かを発信することができます。

小学生の本をまとめながらよく考えると、今ある収蔵品は前近代の美しさを持つもので、今の人々が見てきれいに思うかどうかです。

人形の美しさや伝統美について、啓蒙的に伝えることが必要です。現代人が失った美意識に対する、何らかの啓蒙が今後必要かと思います。学芸員と相談しながら考えていこうと思っています。

林委員長：これからの展開のポイントになる御意見でした。

学芸員も含めた検討が必要だと思います。

大越委員：展示室1が歴史を伝え、展示室2で資料を見せると解釈しました。

準備が長引いた事で、展示の内容も当初の計画より進展したと思います。

ただ、ストーリーで埋めるほどの作品や資料はどれくらい集まったのでしょうか。

頻繁に展示替えが必要であることを考えあわせるとそれなりの点数が必要です。

率直なところどうですか。

事務局：メインは西澤笛畝コレクションで、その後も資料の収集は進めてきました。

笛畝のものは、海外の人形や郷土人形など、ジャンルが偏っていることもあります。

日本人形の様式の流れに沿って展示するために必要な資料ですが、少ないものもあり、

少しずつ収集しています。

安定した運営には、特に展示室2の(2)節句人形、(3)古典人形の数が不足しており、今後も積極的に集める必要があります。

大越委員：PR効果の高い資料も必要だと思います。

林委員長：笛舩コレクションのみである程度展示がまかなえても、展示替えをするとなるとつらい
ため、資料の収集が必要です。

その一つのターゲットとして度々この委員会で話題になっている浅原コレクションがあり、それを取得できるのであれば今の資料を補えるのではないのでしょうか。また、資料収集のためには工夫が必要ではないのでしょうか。

是澤委員から購入について説明をいただきたい。

是澤副委員長：他の美術品と比べて、人形は比較的安価で手に入ります。例えば、文化年間の人形で箱書きがあるものが市場に出ることもあるので、市場の状況をよく見ていないといけません。

絵画や浮世絵、版本も、先行研究があるので、どのような資料があるのかがわかっています。

市場に現れた時に、入手できるようにしないとといけません。絵画資料など、人形に関係のあるものを入手できるように、予算の配置をし、学芸員が臨機応変に対応できるようにすると良いと思います。

林委員長：資料の充実、関連資料の充実に努力が必要であるという事を御理解いただきたいと思います。

大越委員：産業史も大切ですが、ミュージアムとして鑑賞が重要であることはいうまでもありません。是澤委員の御意見ははずす事ができないと思います。

開館時期も決まったため、資料を集める事が必要です。

村上委員：今までの議論と少し場違いな話をすると思いますが、この人形博物館の見方を説明する作業が、開館前にあると良いと思います。

恐らく学芸員の方々は気にしていないと思いますが、展示業者のスタンスは、ジオラマを学校教育的に見せるという視点でしょう。

例えば、学芸員の方の理解は学術的な理解で、さきほど是澤委員がおっしゃったように人によって人形の見方が違うので、その違う見方をフェイスブックの中に幾つか用意して、それを見た人がコメントを出していく、そうすると色々な見方があるという事が参加者によって作られていきます。

人によってものの見方が違う、そのものの見方をどうやって誘導していくかが博物館の仕事で、学芸員が考えるアカデミックな見方も一つであるが、どうやって楽しむかを物理的なものだけではなく、ネット上で出していきます。

研究の部分でなく、エンターティメントをどう作っていくのでしょうか。そこが面白いところかもしれません。

林委員長：御提案は、これからの方向性を考える重要なところと思います。

どう理解して、楽しんでもらうか、重要なご指摘です。

東京国立博物館などのナショナルミュージアムもさまざまな工夫をしています。

これから人形博物館をどうするか、多面的、柔軟に考えていく必要があります。このあたりも事務局は理解した上で計画を練ってもらえればと思います。

委員の方々に色々な御意見や御提案をいただき、実際の展示は準備室内で詰めていく必要があると思います。

他に御意見等特になければ委員会の方向性としては、このような所でよろしいでしょうか。

(特に意見無し)

(2) 議題 イ 「地域連携について」

林委員長：次の議題について事務局から説明をお願いします。

事務局から資料3に基づき説明が行われる。

林委員長：ありがとうございました。着工延期から5年間かかり、準備が行われ、その中での最大の成果は地域連携が深められたことと、NPO法人岩槻・人形文化サポーターズの設定だと思っています。

加藤委員から補足をいただければと思います。

加藤委員：村上委員の御指導で、観光的視点を入れて、現在、13名で活動しています。

2月29日にNPO法人としての登記が終わりました。まちづくりのためのNPO法人で、人形協同組合関係、イベントの開催責任者、大学の非常勤講師、高校の教諭、元商工会議所職員、商店会連合会会員、シニア大学関係者、人形協同組合の女性部の責任者など13名で構成しています。

ブランディングを考えています。土地の記憶からすると、縄文時代、3000年前から岩槻は人形の里であったとか、学術的なことだけでなく、観光を視野に入れた検討をしています。

多世代で木目込み人形などを作ったりしています。今年は学芸員の指導で、天神様を作る体験を開催する予定です。子どもを呼ぶと、親、親が来られない場合はおじいさん、おばあさんなど3世代が関わります。こういった事で関心を持ってもらいます。

さいたま市は盆栽、漫画、岩槻の人形という文化を持っています。岩槻には国登録の有形文化財として大正館や、郷土資料館もあります。ストーリーを作って観光に結び付けていく、知識体験型のものの提供をサポーターズは頭に入れて活動しています。それが誘客、活性化に必要なのではないかと思います。

まちかど雛めぐりと新たに始めたアートフェスティバルの関係ですが、後者では国内の創作人形作家の作品を募集しました。

今年は世界に向けて公募する準備をしています。

イベントについては各大使館に働きかけ、「ニンギョウ」という言葉を世界中に広める事を考えています。

地域のアイデンティティーを育てていきたいと思います。

林委員長：大変綿密な情報収集を元に、戦略を立て、一つずつ戦術として進めておられるようです。

人形博物館はオリンピック開催前の開館です。力強いサポートです。

村上委員からも一言いただきたいと思います。

村上委員：スポーツ文化局の施設であるという事で、何を市民に創りだしていくか、事業として新しいモデルができていないかと思っています。

市民の豊かな暮らしを生み出すのはスポーツ文化局で、経済産業局とは違います。その核は文化で、それをどう具体的に市民に示していくのがスポーツ文化局の仕事です。施設ではなく、イベントにしていく。加藤委員のようにイベント化し、それをどこかがコアのマネジメントを行います。

皆が共有できる一つの基盤、見えるものの象徴が博物館です。

1950年代のアメリカが持ってきた公民館というものの意味がリノベーションされ、文化が中心となって生活の新しい価値を作り、そのコアに純粋なものを考えていきます。それは何かというと人形そのものの歴史と、それにつながる地域の歴史となります。岩槻が創りだしていこうとする新しい市民生活の資源や形というものです。

この部分は震災以降、人間関係論が中心であるが、皆、文化創造の基盤を持っていて、さいたま市の一つのモデルがここにある、その核が人形であれば、区民は反対しません。そういった構造は理想の形となっていると思います。それを市が政策の中で説明していく事が必要です。

加藤委員：ベースを作ってもらい、御指導をいただいた成果が少しずつ出てきたかと思っています。

林委員長：具体的な検討や講座などを行い進められた地域のアイデンティティーの形成であると思っています。

田島委員：地域の向かう方向が見えてきた状況であると思います。

東日本大震災の時に岩槻にいました。5年が経ち、今よく進めている取組と思います。開館を迎えて、予想されることをどう受け止めるかのプラットフォームがあるということだと思います。

どう地域が対応するか、想像できない事もあります。その時の窓口づくりだと思います。

村上委員：イギリスにはシチズンシップという教育があり、25年前から進められていますが、それが今壁にぶち当たって、越えようとしています。どうやって地域のことや、産業、社会等について考える人材を高校までに育成するかという考えです。

日本は高校までに社会人としての基礎的な人格を育成するとありますが、日本の場合、中・高でシチズンシップについて考える授業は、公民で2単位ぐらいしかありません。一方、日本は高齢者社会に向かっています。「サラリーマン」が終わった人がどうやって自分たちの地域を考え、暮らしていくのでしょうか。

公民館で歌を歌っている人々が、もう一步踏み出し、どうやったら「サラリーマン」が終わった人が長い人生を暮していくのか、そういった契機を生み出す基盤にすると良いと思います。

林委員長：いわゆる、地域、住民への連携の話でした。

大越委員：人形という核があるのは素晴らしいと思います。

アートではコアは作りにくいものです。動的なものを重視しすぎて、なかなかコアを作りづらいものです。

コアがあって活動するというのは理想的なパターンです。

林委員長：資料3にNPO法人岩槻・人形文化サポーターズの平成28年度の活動の目標があります。区長にはさまざまな形でバックアップして頂きたいと思います。

内藤委員：今後、サポーターズでは、色々な事業を行うようですが、勉強会をとおして意見を出し合い、新しいものを作っていただきたいと思います。横のつながりの活動で、今後も市としてのまちづくりと連携していただければと思います。市民の方々の力はありがたく思います。できるだけ（人形博物館を）バックアップしていただきたいと思います。非常に頼もしく思います。

大越委員：とくに開館前はやるべきことが多くあって、学芸員ができる事には限界があります。

本当はもっと館をPRしないといけないのですが、そういったところをサポーターズの力で、是非、積極的にバックアップしていただく事を期待したいと思います。

林委員長：大変心強いです。

是澤委員にもご助言をいただきたい。

是澤副委員長：人形の専門家としての意見として、この施設は盆栽美術館とは同じに考えない方が良いと思います。

盆栽は世界に広まっていますが、人形は日本の伝統文化であるがゆえに理解されないと思います。かつて東京国立博物館の山辺先生が、日本人形をヨーロッパに持って行かれたところ、これは何だと言われました。

欧米では人の形は彫刻で表されます。日本人形はなかなか理解されません。

世界に無いので日本固有の文化であるのですが、世界に発信するとなると大きなハードルとなります。少し問題が出てくると思います。

またマニアと一般の人の鑑賞に大きな差があります。このあたりを御理解していただきたく、僭越ながら申し上げます。

林委員長：さきほどの話にも出た、どうやって人形を鑑賞するか、開館した段階で、利用者以外にどういう形で伝えるのか、情報の発信の仕方についての意見でした。

是澤副委員長：盆栽ほど、注目されなくても、だからこそ日本文化ということが出来ます。

恐らく世界でも注目される可能性は秘めていると思います。

目先の入館者数ではなく、10～20年という長い目で見ていただきたい。加藤委員たちの活動が10～20年続けば、グローバルに発信できるのではないのでしょうか。

加藤委員：そういった事を意識して人形文化を考えて行きます。スタティックなものが人形であります。

若い世代にはガンダムも人形です。コスプレも含めます。

ここには古い文化が繋がっているとか、誘客という意味で日本文化を学んでいただきたいです。

文化と観光の違いを意識しながらどう活用していくのでしょうか。また一般市民にどう伝えていくのでしょうか。まだ問題点がすごくあります。

プラットフォームについての理解者が少なく、ボトムアップすることが現状であります。そういう意味ではまだ4年間あります。皆様の御指導をいただきながら進んでいきたいと思えます。

林委員長：これだけ成果が出ているが、課題があると理解しました。今後、この委員会や事務局の方で、解決すべき課題があると御理解いただければ良いです。

さいたま市の文化は、鉄道、盆栽、人形というのは変わらないです。

人形博物館についてお力を、あるいは提案をこの委員の方々が事務局に発信できれば良いと思えます。

地域連携についてはこのあたりでよろしいでしょうか。

本日の議題についてさまざまなご意見をいただきました。

御協力ありがとうございました。

事務局から何かありますか。

4 その他

事務局：次回の開催は来年、1月頃を予定しています。

早めに日程調整を行い、ご連絡しますのでよろしく願いいたします。

林委員長：人形博物館に関わる直近のスケジュールを説明していただきたい。

事務局：事業費について、近々議会に予算を計上する予定です。

平成28年度中には、施設整備に関わる契約を締結したいと考えています。

5 閉会

林委員長：それではこれで議事を終了させていただきます。

御協力、ありがとうございました。

—以上—